

(7) 利岡小学校

学 校 長 濱口 明大
校内研究代表者 市原 百梨佳

1. 研究主題

「複式授業で学びを深める児童の育成」
～語彙力を高め、思いを伝え合う国語科・道徳科の授業づくり～

2. 主題設定の理由

本校は平成30年度まで複式学級を有し、複式授業の授業改善や指導法の工夫といった研究を行ってきた。そして平成30年度には、思考力・判断力・表現力を育てるために言語活動に重点を置いた国語科の授業づくりの研究に転換している。

令和2年度からは研究主題を「複式授業で学びを深める児童の育成」とし、複式授業のスタンダードを確立するため、学習リーダーを中心とした主体的に学ぶ態度の育成と、「とも学び」の充実を目指した表現力と対話力の育成に重点を置いた。また、複式授業づくり講座の指定を受け、新学習指導要領が謳う資質・能力を育成する国語科の指導方法を中心に研究し、見方・考え方を働かせる言語活動を取り入れる等の授業改善を図ってきた。昨年度は、その継続と、学びへの意欲を高める導入の工夫やICT機器の有効な活用方法を探ったり、同領域同時指導に挑戦したりと新しいことにも取り組んだ。その結果、各種学力調査は全国平均よりも高い結果を得ており、基礎学力が定着していると言える。授業においても、学習メニューによって見通しを持ち、学習リーダーを中心に自分たちで授業を進めることができ、対話を通したとも学びなど着実に力を付け、意欲的に取り組むことができている。

しかし、学力調査に表れにくい部分として「文章を読み、自分の考えや思いをまとめる力が弱い」「使える語彙が少ない」「学年の発達段階に対して表現が稚拙」「言いたいことは分かるけれど、伝え方や表現が適切でない」など、文章力、表現力に課題が残った。読書の習慣付けや辞書引きの励行等に取り組んできたが、語彙力増に結びついていない。「語句の意味や使い方に対する認識」をどう深め、語彙の質を高めていくか。学習指導要領にも「語彙は言語能力を支える重要な要素」と明記されており、語彙指導の改善と充実は本校においても喫緊の課題である。

そこで、今年度も引き続き研究主題を『複式授業で学びを深める児童の育成』とし、複式授業づくりの取組を継続させながら、副題を「語彙力を高め、思いを伝え合う国語科・道徳科の授業づくり」とした。国語科における研究を中心としながら、“特別の教科”と現下の学習指導要領において冠することになった道徳科についても、全ての学校教育活動の基盤と位置付けられたことを念頭にその充実を目指していく。また、各学級に学習面での個別支援の必要な児童が複数在籍する中で、どのような手立てをとることができるか。確かな学力の定着と向上を図るための方策についての研究も更に充実させていきたい。

3. 研究の進め方と方法

企画 … 計画立案（校長、教頭、研究主任）

方法 … 毎週水曜日 15:00～

第1週－校内研修

第2週－職員会

第3週－校内研修

第4週－校内研修

4. 研究内容

児童につけたい力

- ◆学習規律 ◆基礎・基本の力
- ◆思考力、表現力(文章力)、対話力
- ◆学習リーダーとしての資質

学習のふりかえり・まとめを充実させるために…

- ◎教材解釈を深め、ねらいをはっきりさせる。
- ◎自分の思いを言葉で書く活動を取り入れる。
- ◎学校生活全体を通して言語環境を整える。

(1) 学びを深める学習指導

- ・学習規律の徹底
 - *学習の準備
 - *聞き方・話し方 … 「はい」の返事、はっきりとした声
 - *ノート指導 … 日付け、ページ、色分け、誰が見ても見やすいノート
- ・複式授業のスタンダードの確立と実践
 - *単元計画・学習メニューの提示
 - *主体的に学習を進めるための板書やワークシートの準備
 - *学習リーダーの育成
 - *とも学びの充実
 - *ICT 機器の有効活用

めあて …㊟
ひとり学び…㊱
とも学び …㊲
まとめ …㊳
ふりかえり…㊴
練習問題 …㊵

(2) 言語能力、表現力(文章力)を付けるための取組

- ◎語彙を豊かにする指導の改善・充実
- ◎国語科授業研究
 - 領域「読むこと」または「書くこと」
 - 研究授業・・・1回目 5・6年(1学期) 2回目 3・4年(2学期)
 - その他の取組
 - ・日記指導、高知新聞「読もっか」への投稿、読書感想文コンクールへの応募
 - ・帰りの会での日直スピーチ

(3) 道徳科授業研究について(四万十市・三原村道徳教育推進委員会授業研修会に向けて)

- 研究授業・・・1回目 1・2年(1学期) 2回目 1・2年(11月)
- 道徳参観日・・・全学級公開授業(指導略案)

(4) 授業改善・学力向上を目指した取組

- ①上学年クラスの複式授業を児童が参観
- ②複数教員による加力指導
- ③教員の学び合い「みてみて週間」の実施
 - 「みてみて週間」として2週間設定し、特別支援学級を含む各学級が国語科と道徳科の授業を公開

(5) その他の教育実践

- ①確かな学力の習得
 - ・家庭学習の習慣化と質の向上
 - ・読書活動の推進

- ・発表朝会 … 1、2 学期に各学級 1 回ずつ表現活動を行う。

②心豊かな児童の育成

- ・人権教育と道徳教育の充実
- ・挨拶運動（児童会、全校児童による縦割り班での活動）
- ・仲間づくり（各種行事、定期的な全校遊びの実施など）

③児童理解について

- ・QU テスト実施と分析（年に 2 回実施・分析結果を踏まえ指導）
- ・児童や学級の変容を継続的に追った実態報告の場と時間を確保し、共通理解をもつ。

④健康、体力づくり

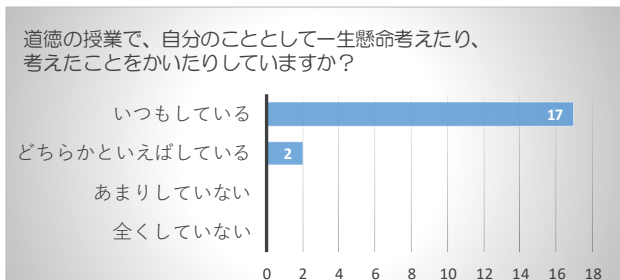
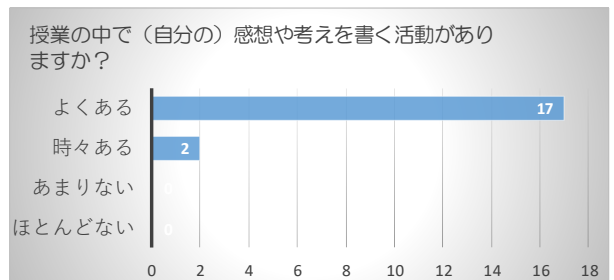
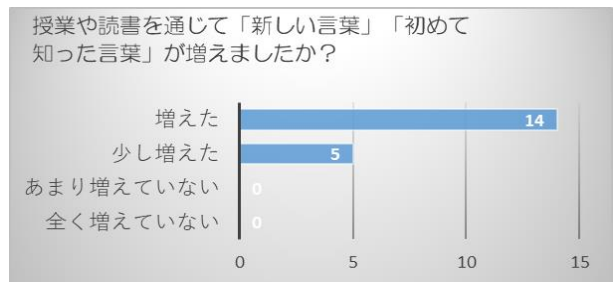
- ・朝運動（わんぱくタイム）の実施…マラソン、縄跳び、ラジオ体操、一輪車、柔軟など
- ・生活がんばりカード
- ・歯みがきブラッシング指導、フッ素洗口

⑤その他

- ・地域との連携・協働（地域学校協働本部事業・・・書道、絵手紙など）

5. 今年度の成果（○）と課題（●）

- 複式スタンダードが定着し、学習リーダーが中心となって学び合いができる授業となっている。
- 言語に対する興味・関心を高め、言葉の意味理解が深まった。
- 書くことへの意欲が高まり、文章力が少しずつ向上している。
- 登場人物の心情を自分に置き換えて考えるなど、表現し伝え合う力が向上した。
- “特別の教科”となって初めて全校挙げて研究に取り組んだ道徳科は、外部講師を複数回お招きしての校内研での学習の積み重ねが一定の成果を上げてきた。
- 研修等で学んだことをすぐに授業に取り入れ実践し、振り返って話し合うなど、チームとして研究を進めることができた。
- 国語科でも道徳科でも、児童に「何を身に付けさせたいのか」考えて授業づくりができている。



- 学んだ言葉の使い方や獲得した語彙を多様な場面で活用できる力がまだまだ乏しい。
- 各種学力テストの「文法」や「語彙」に関する設問の正答率が他に比べ低い。
- 「考え、議論する道徳」の授業の更なる充実を図る。